

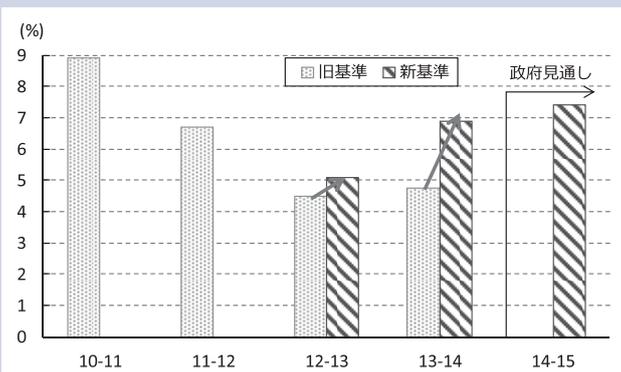
# アジア・新興国 ～インドの経済成長率が中国を抜く!?～

経済調査部 首席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)

## 基準変更によりインドの経済成長率が上方修正

今年1月、インド政府はGDP(国内総生産)の計算根拠となるSNA(国民経済計算)の基準を変更することを発表した。新たな基準によると、2012-13年度と13-14年度(インドの年度は日本同様に4月に始まる)の経済成長率はそれぞれ+5.1%と+6.9%(前基準では+4.5%、+4.9%)と大きく上方修正された。インドは長年に亘って社会主義国として歩んでおり、西側諸国のような精緻なSNAが整備されていなかった。よって、過去にインドが発表してきた経済成長率は他国と単純比較することが難しいものであったと言える。こうした状況を変えるべく、政府は新たな基準に基づくSNAを整備し、それに伴って経済成長率を改定する作業に取り組んできた。また、政府は今年3月までとなる2014-15年度の経済成長率は+7.4%になるとし、2015-16年度には一段と加速するとの見方を示している。

### 資料1 経済成長率の推移

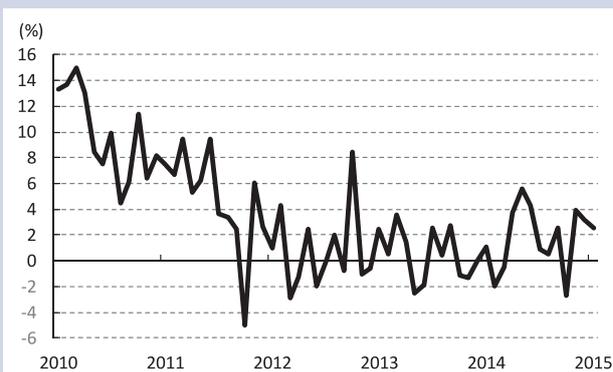


単純に比較することは難しいものの、中国が今年の経済成長率目標を「7%前後」に引き下げており、景気減速を容認する姿勢をみせるなか、インドの経済成長率が中国を追い越すことが現実味を帯びつつある。直近のアジア開発銀行(ADB)による見通しでも、インドの経済成長率は中国を上回るとの見方が示されており、インドにとっての悲願達成はいよいよ間近になっている。

## さらなる精度向上には基礎統計の充実が不可欠

一見すると、インド政府は国際標準の体系をきちんと整備し、その上で経済成長率が中国を上回るようになるなど良いことばかりに見える。しかし、今回のインドのSNAの基準改定には多くの疑問点があるのも事実である。GDP統計を計算するに当たっては、「三面等価(生産、分配、支出の3つの側面でGDPが等しい)」が前提となるが、インドでは元々社会主義国であったことから、生産に関する統計は詳細に存在するものの、分配(所得)や支出に関する基礎的な統計はほとんど存在しない。よって、SNA自体がどのように体系だったものとなっているかについては、云わば「ブラックボックス」のような状態となっているのが実状である。また、すでに存在している生産に関する統計をみても、足下のインド経済に対して7%を上回る高い伸びを示しているとは想定しにくい状況が続いている。

### 資料2 鉱工業生産(前年比)の推移



12億人を超える人口を擁し、その平均年齢も若いため、中長期的にも安定的な人口増加が見込まれるなど潜在力の高いインドだが、見た目の成長率に「騙される」リスクはくすぶっている。インドが本当の意味で信頼を得るには、構造改革などの取り組みのみならず、基礎統計の整備といった地味な課題解決も必要と言えよう。